

2020/9/16

柏の景気情報（令和2年8月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18
T E L : 04-7162-3305
F A X : 04-7162-3323
U R L : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>
E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報(令和2年8月分)

○ 調 査 期 間 : 令和2年8月24日 ～ 令和2年9月8日

○ 調 査 対 象 : 柏市内134事業所及び組合にヒアリング

<産業別回収状況>

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全 産 業	134	91	67.9%
建 設	34	19	55.9%
製 造	35	28	80.0%
卸・小売	39	27	69.2%
サービス	26	17	65.4%

○ 調 査 方 法 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回 答 欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック(記述式)

DI値 = 1増加他の回答割合 - 3減少他の回答割合

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【令和2年8月の業況についての状況】

○ 8月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲53.8(前月水準▲45.0)となり、マイナス幅が8.8ポイント拡大、4か月ぶりに全産業で悪化。

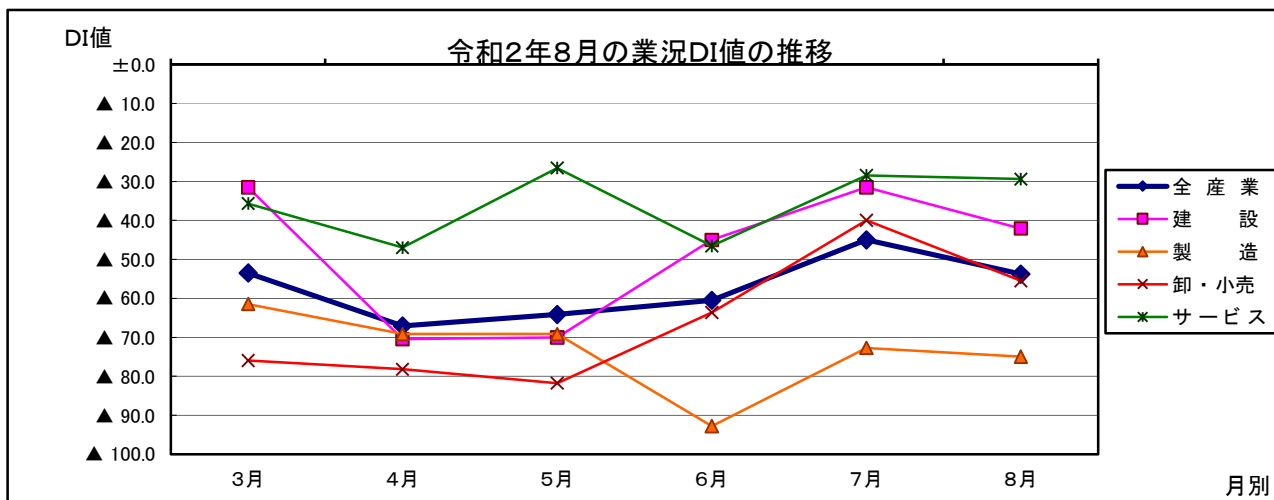
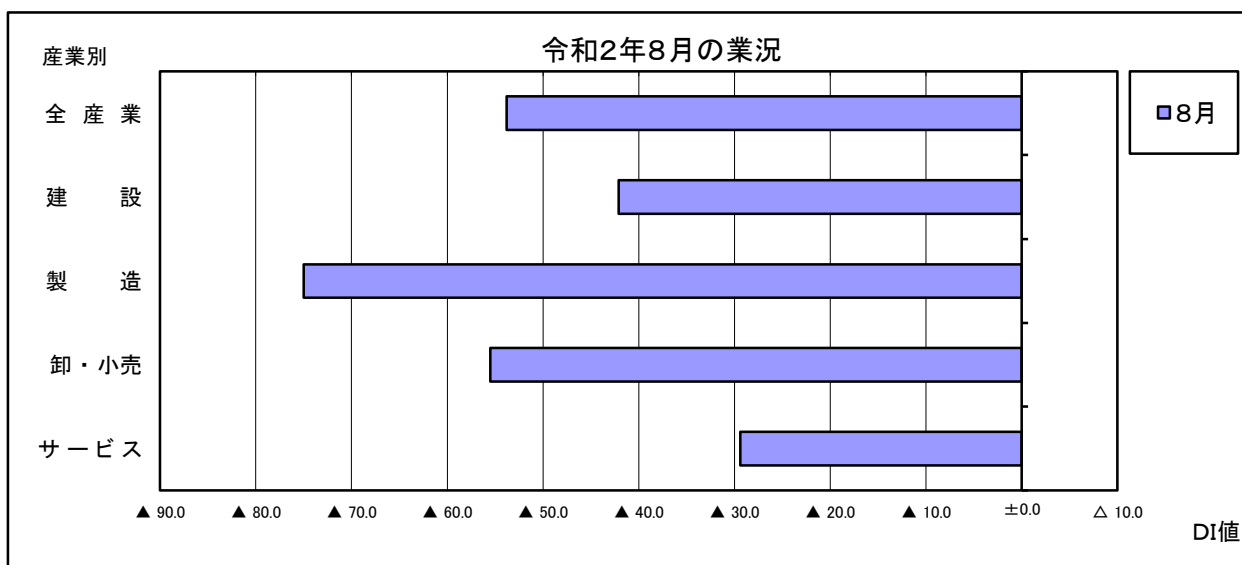
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲55.5(同▲40.0)、建設業▲42.1(同▲31.5)、製造業▲75.0(同▲72.7)、サービス業▲29.4(同▲28.5)である。

○ 向こう3ヶ月(9月から11月)の先行き見通しについては、全産業では、▲29.6(前月水準▲27.5)となり、マイナス幅が2.1ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、製造業▲35.7(同▲36.3)である。変らない見通しの業種は、建設業▲15.7(同▲15.7)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲40.7(同▲36.0)、サービス業▲17.6(同▲14.2)である。

令和2年8月業況DI値(前年同月比)の推移

	令和2年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9月～11月(8月～10月)
全産業	▲53.5	▲67.1	▲64.2	▲60.5	▲45.0	▲53.8	▲29.6(▲27.5)
建設	▲31.5	▲70.5	▲70.0	▲45.0	▲31.5	▲42.1	▲15.7(▲15.7)
製造	▲61.5	▲69.2	▲69.2	▲92.8	▲72.7	▲75.0	▲35.7(▲36.3)
卸・小売	▲76.0	▲78.2	▲81.8	▲63.6	▲40.0	▲55.5	▲40.7(▲36.0)
サービス	▲35.7	▲47.0	▲26.6	▲46.6	▲28.5	▲29.4	▲17.6(▲14.2)



【令和2年8月の売上についての状況】

○ 8月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲46.1(前月水準▲40.0)となり、マイナス幅が6.1ポイント拡大した。

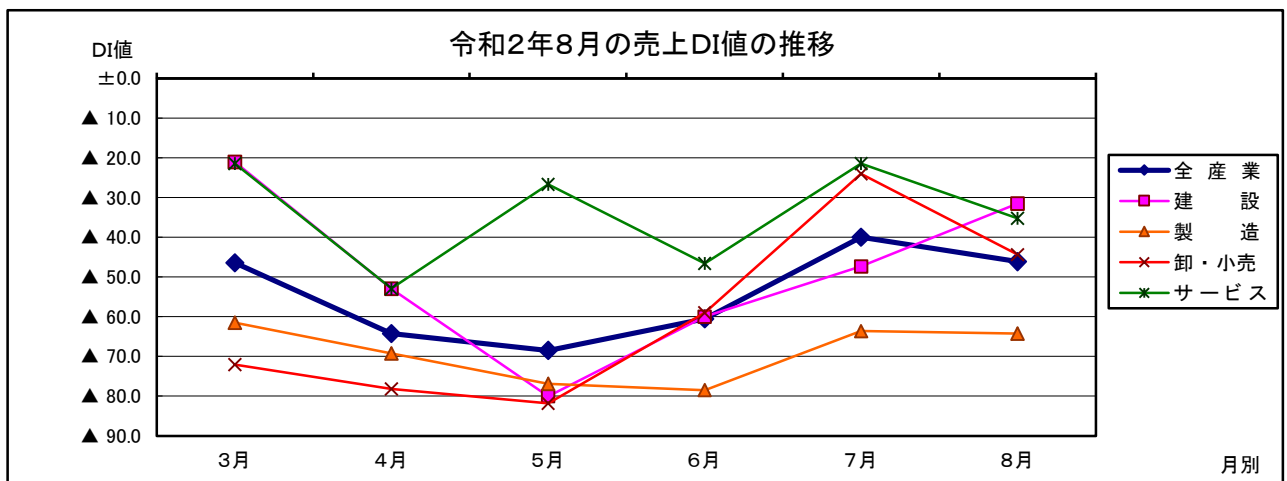
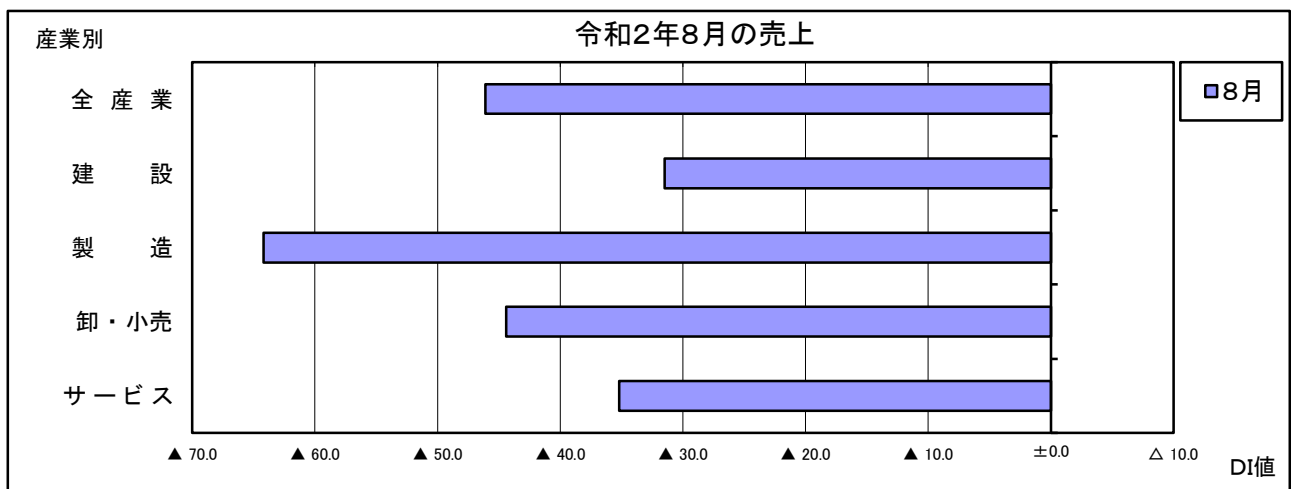
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、建設業▲31.5(同▲47.3)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲44.4(同▲24.0)、サービス業▲35.2(同▲21.4)、製造業▲64.2(同▲63.6)である。

○ 向こう3ヶ月(9月から11月)の先行き見通しについては、全産業では、▲23.0(前月水準▲35.0)となり、マイナス幅が12.0ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、サービス業△11.7(同▲21.4)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲32.1(同▲50.0)、建設業▲15.7(同▲26.3)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲40.7(同▲36.0)である。

令和2年8月の売上DI値(前年同月比)の推移

	令和2年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9月～11月(8月～10月)
全産業	▲46.4	▲64.2	▲68.5	▲60.5	▲40.0	▲46.1	▲23.0(▲35.0)
建設	▲21.0	▲52.9	▲80.0	▲60.0	▲47.3	▲31.5	▲15.7(▲26.3)
製造	▲61.5	▲69.2	▲76.9	▲78.5	▲63.6	▲64.2	▲32.1(▲50.0)
卸・小売	▲72.0	▲78.2	▲81.8	▲59.0	▲24.0	▲44.4	▲40.7(▲36.0)
サービス	▲21.4	▲52.9	▲26.6	▲46.6	▲21.4	▲35.2	△11.7(▲21.4)



【令和2年8月の採算についての状況】

○ 8月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲52.7(前月水準▲46.2)となり、マイナス幅が6.5ポイント拡大した。

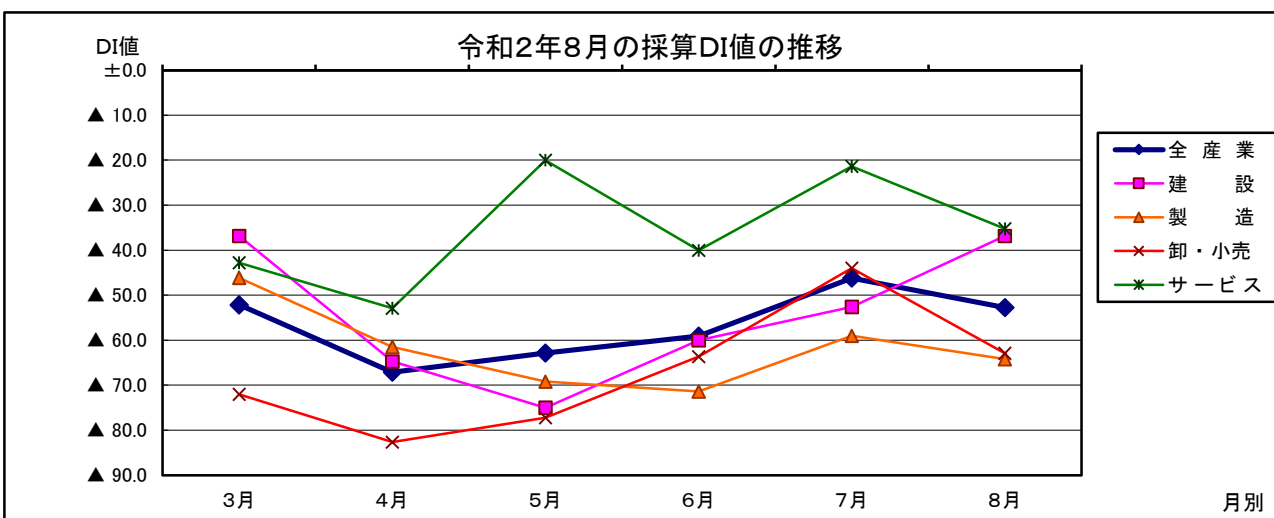
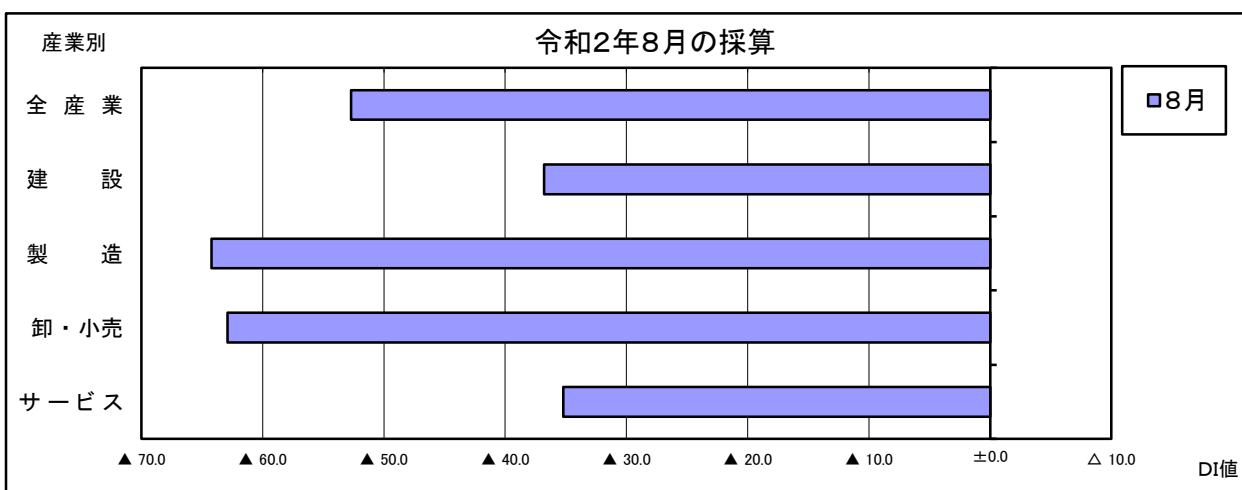
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、建設業▲36.8(同▲52.6)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲62.9(同▲44.0)、サービス業▲35.2(同▲21.4)、製造業▲64.2(同▲59.0)である。

○ 向こう3ヶ月(9月から11月)の先行き見通しについては、全産業では、▲23.0(前月水準▲40.0)であり、マイナス幅が17.0ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、サービス業△11.7(同▲21.4)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲28.5(同▲45.4)、建設業▲21.0(同▲36.8)、卸小売業▲40.7(同▲48.0)である。

令和2年8月の採算DI値(前年同月比)の推移

	令和2年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9月～11月(8月～10月)
全産業	▲52.1	▲67.1	▲62.8	▲59.1	▲46.2	▲52.7	▲23.0(▲40.0)
建設	▲36.8	▲64.7	▲75.0	▲60.0	▲52.6	▲36.8	▲21.0(▲36.8)
製造	▲46.1	▲61.5	▲69.2	▲71.4	▲59.0	▲64.2	▲28.5(▲45.4)
卸・小売	▲72.0	▲82.6	▲77.2	▲63.6	▲44.0	▲62.9	▲40.7(▲48.0)
サービス	▲42.8	▲52.9	▲20.0	▲40.0	▲21.4	▲35.2	△11.7(▲21.4)



【令和2年8月の仕入単価についての状況】

○ 8月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲15.3(前月水準▲16.2)となり、マイナス幅が0.9ポイント縮小した。

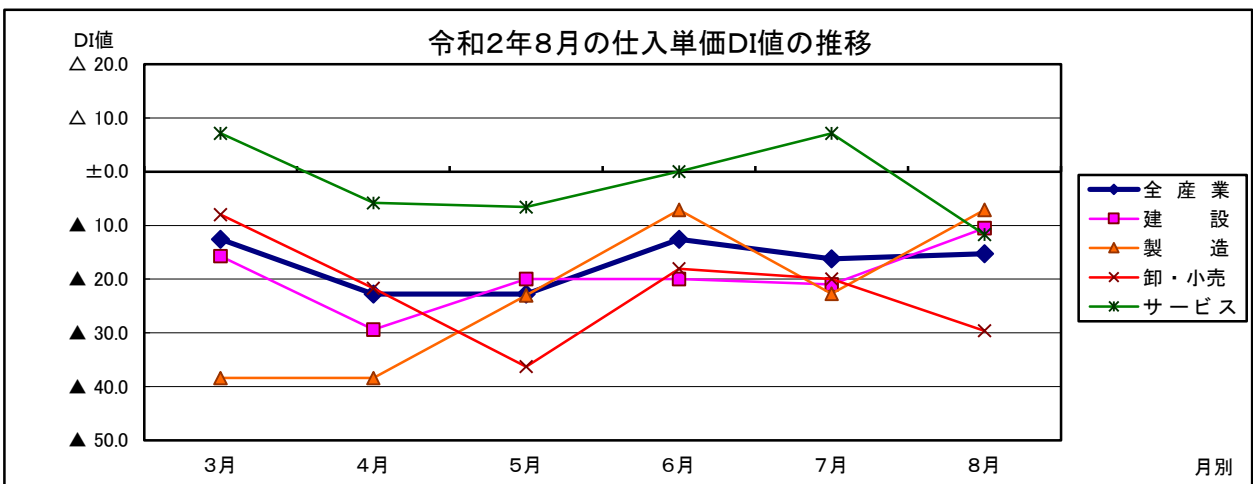
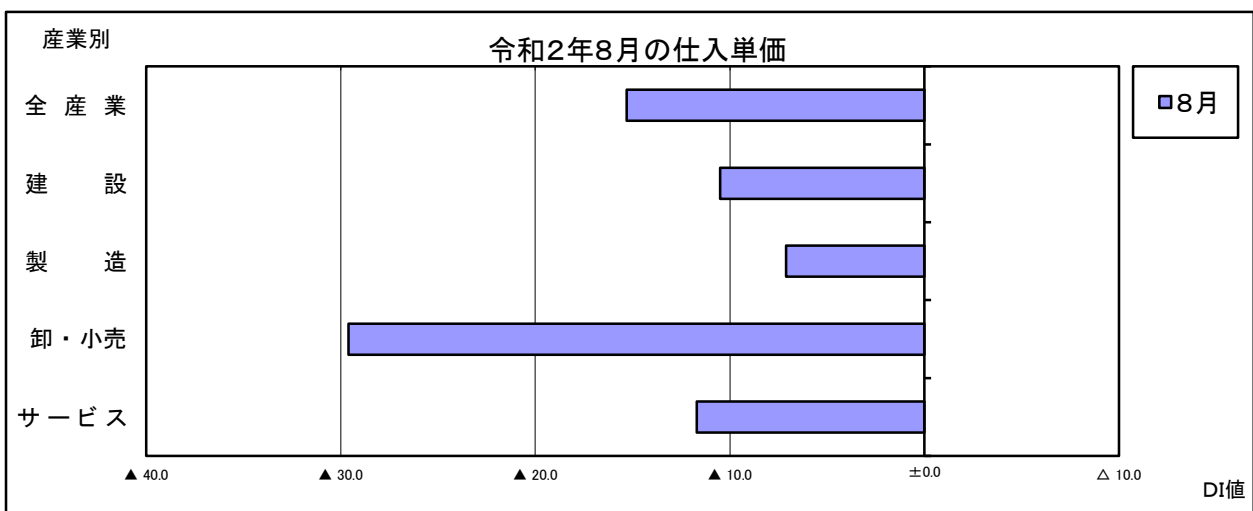
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業▲7.1(同▲22.7)、建設業▲10.5(同▲21.0)である。プラスからマイナスに転じた業種は、サービス業▲11.7(同△7.1)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲29.6(同▲20.0)である。

○ 向こう3ヶ月(9月から11月)の先行き見通しについては、全産業では、▲9.8(前月水準▲12.5)となり、マイナス幅が2.7ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲7.1(同▲18.1)、建設業▲5.2(同▲15.7)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業△5.8(同△14.2)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲25.9(同▲20.0)である。

令和2年8月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	令和2年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9月～11月(8月～10月)
全産業	▲12.6	▲22.8	▲22.8	▲12.6	▲16.2	▲15.3	▲9.8(▲12.5)
建設	▲15.7	▲29.4	▲20.0	▲20.0	▲21.0	▲10.5	▲5.2(▲15.7)
製造	▲38.4	▲38.4	▲23.0	▲7.1	▲22.7	▲7.1	▲7.1(▲18.1)
卸・小売	▲8.0	▲21.7	▲36.3	▲18.1	▲20.0	▲29.6	▲25.9(▲20.0)
サービス	△7.1	▲5.8	▲6.6	±0.0	△7.1	▲11.7	△5.8(△14.2)



【令和2年8月の従業員についての状況】

○ 8月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△3. 2(前月水準△5. 0)となり、プラス幅が3. 6ポイント縮小した。

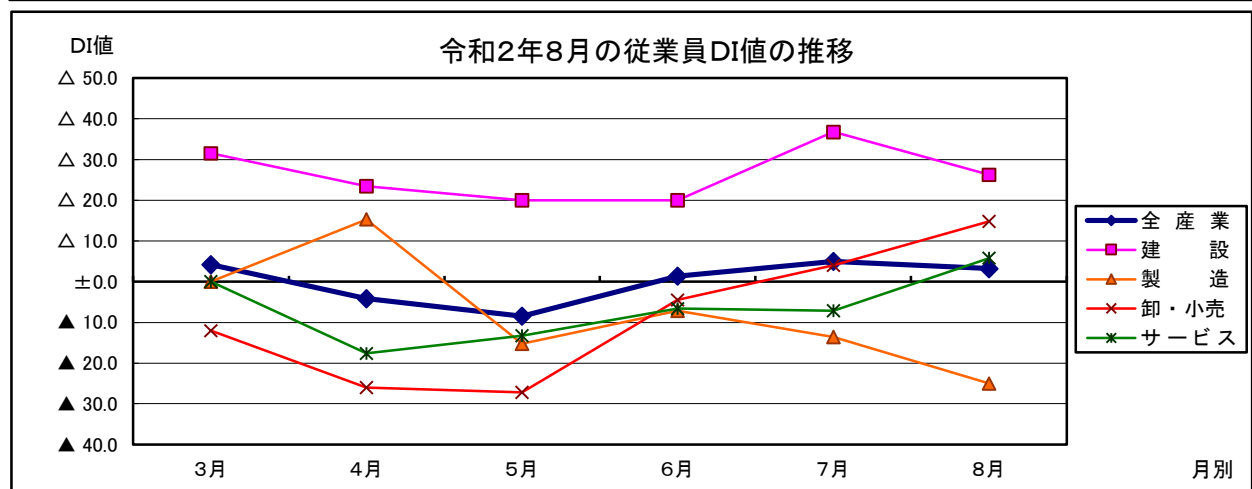
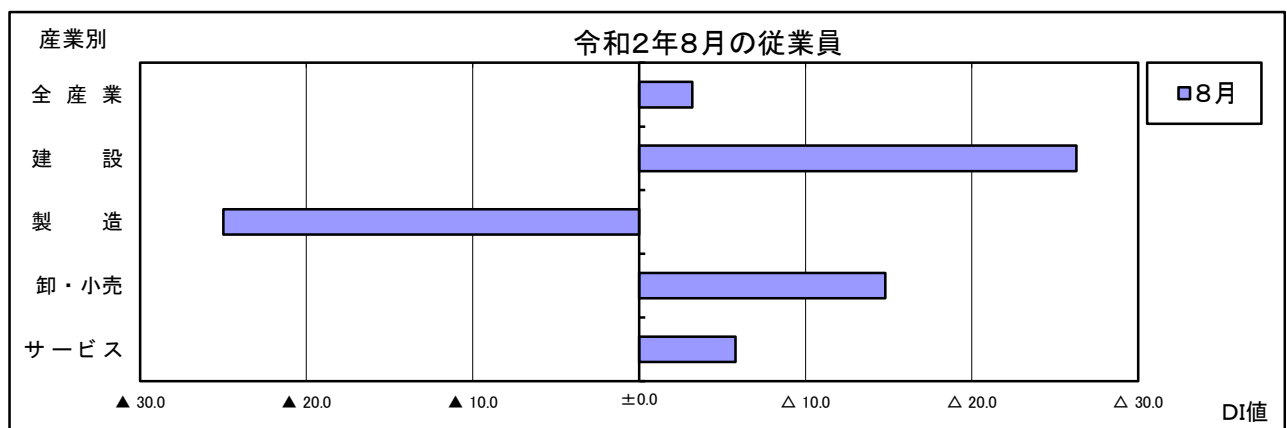
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、卸小売業△14. 8(同△4. 0)である。マイナスからプラスに転じた業種は、サービス業△5. 8(同▲7. 1)である。プラス幅が縮小した業種は、建設業△26. 3(同△36. 8)である。マイナス幅が拡大した業種は、製造業▲25. 0(同▲13. 6)である。

○ 向こう3ヶ月(9月から11月)の先行き見通しについては、全産業では、△4. 3(前月水準△6. 2)となり、プラス幅が1. 9ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業△22. 2(同△8. 0)、サービス業△17. 6(同△7. 1)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、建設業△10. 5(同△36. 8)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、製造業▲25. 0(同▲22. 7)である。

令和2年8月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	令和2年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9月～11月(8月～10月)
全 産 業	△ 4.2	▲ 4.2	▲ 8.5	△ 1.4	△ 5.0	△ 3.2	△ 4.3 (△ 6.2)
建 設	△ 31.5	△ 23.5	△ 20.0	△ 20.0	△ 36.8	△ 26.3	△ 10.5 (△ 36.8)
製 造	±0.0	△ 15.3	▲ 15.3	▲ 7.1	▲ 13.6	▲ 25.0	▲ 25.0 (▲ 22.7)
卸・小売	▲ 12.0	▲ 26.0	▲ 27.2	▲ 4.5	△ 4.0	△ 14.8	△ 22.2 (△ 8.0)
サ ー ビ ス	±0.0	▲ 17.6	▲ 13.3	▲ 6.6	▲ 7.1	△ 5.8	△ 17.6 (△ 7.1)



【令和2年8月の資金繰りについての状況】

○ 8月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲27. 4(前月水準▲18. 7)となり、マイナス幅が8. 7ポイント拡大した。

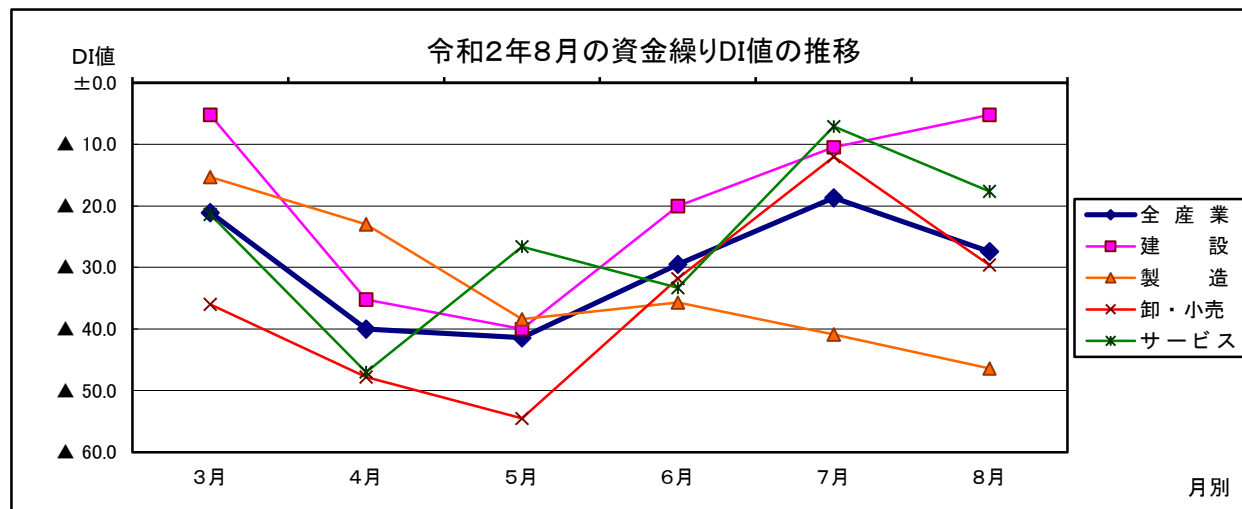
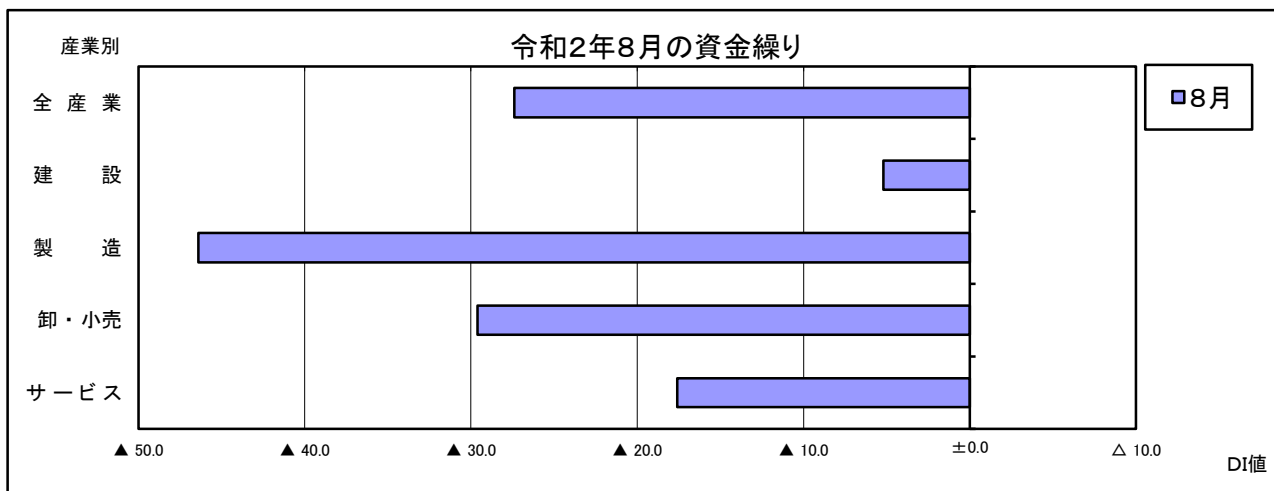
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、建設業▲5. 2(同▲10. 5)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲29. 6(同▲12. 0)、サービス業▲17. 6(同▲7. 1)、製造業▲46. 4(同▲40. 9)である。

○ 向こう3ヶ月(9月から11月)の先行き見通しについては、全産業では、▲14. 2(前月水準▲15. 0)となり、マイナス幅が0. 8ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲28. 5(同▲36. 3)、建設業±0. 0(同▲5. 2)、サービス業▲5. 8(同▲7. 1)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲14. 8(同▲8. 0)である。

令和2年8月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	令和2年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9月～11月(8月～10月)
全 産 業	▲ 21.1	▲ 40.0	▲ 41.4	▲ 29.5	▲ 18.7	▲ 27.4	▲ 14.2 (▲ 15.0)
建 設	▲ 5.2	▲ 35.2	▲ 40.0	▲ 20.0	▲ 10.5	▲ 5.2	±0.0 (▲ 5.2)
製 造	▲ 15.3	▲ 23.0	▲ 38.4	▲ 35.7	▲ 40.9	▲ 46.4	▲ 28.5 (▲ 36.3)
卸・小売	▲ 36.0	▲ 47.8	▲ 54.5	▲ 31.8	▲ 12.0	▲ 29.6	▲ 14.8 (▲ 8.0)
サ ー ビ ス	▲ 21.4	▲ 47.0	▲ 26.6	▲ 33.3	▲ 7.1	▲ 17.6	▲ 5.8 (▲ 7.1)



【令和2年8月の調査結果のポイント】

《全産業DIは再び悪化。新型コロナウイルスの影響による厳しさが残るも、先行きは持ち直しの期待感見える》

8月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲53.8(前月水準▲45.0)となり、マイナス幅が8.8ポイント拡大、4か月ぶりに全産業で悪化。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲55.5(同▲40.0)、建設業▲42.1(同▲31.5)、製造業▲75.0(同▲72.7)、サービス業▲29.4(同▲28.5)である。

新型コロナウイルス感染症の感染防止対策と社会経済活動の両立が求められる中、東京圏における感染拡大の懸念と暑さの影響もあり、消費マインドの低下、感染リスクの長期化が要因となり、DI値がマイナスに推移したとみる。一方、夏休みの外出自粛の影響でテイクアウトは上向き、食料品や化粧品は順調、先月から全産業で新たな設備投資やビジネスモデル転換の動きに言及したコメントも寄せられている。先行き見通しDIは▲29.6(今月比+24.2)と改善への期待感が大きい。

【建設業】からは、「少人数経営なので感染者を出さないよう徹底」(一般土木建築工事)、「受注は好転したが人手不足が解消されず、仕事量に比べて完成までに時間がかかる」(とび)、「square社のカード決済を導入しキャッシュレス対応開始」(畳工事請負・畳製造販売)、「官公庁の受注は昨年並みだが、民間工事受注は減少。来年以降の見通し立たず」(土木建築サービス)、「気温が高すぎて仕事に影響」(土木工事)などの声が寄せられた。

【製造業】からは、「働き方改革で社員の所得減。副業・兼業を認めた場合、過剰労働等で労災が発生した際の責任の所在が問題になるのでは」(自動車付属品)、「自粛の影響は大きい」(かばん)、「売上高が前年比60%近くまで落ち、底が見えず。雇用調整助成金を申請するため臨時休業を実施。9月はパートの契約更新月だが同水準で雇用できるだろうか」(金属製品)、「東京圏の飲食店自粛で酒類業界の売上増は見込めず」(酒類)、「受注動向が不透明で今後の方向性がつけづらい」(金属加工機械)、「受注激減。当面の間は非常に厳しい業況」(電子応用装置)、「主力製品は夏季休暇と休業で生産性が低下し前月より悪化。新規市場向け新製品の立ち上げを見込み設備投資を行う。観光やインバウンド需要の減少で食品向け製品は大幅な悪化」(鉄鋼業)、「コロナの影響が出ている先はここ3ヶ月間注文が全く無い」(プラスチック製品)、「9月から通常営業を開始。コロナで控えた営業部の1名増員を再検討」(化学工業)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「来店客数に比べ客単価が上昇でまとめ買いの傾向。営業費削減を更に取り組む」(百貨店)、「帰省土産がダメだったが、洋生菓子はまあまあ」(洋菓子店)、「『GoToトラベル』が始まるも外出自粛の傾向は強く、お出かけ着は苦戦。お盆休みは家でプチ贅沢か、高額商品の動向が良かった」(大型小売店)、「イベント特注が減少。テイクアウトは上向き」(飲食料品小売)、「家庭内食事増加で、駅周辺店舗を除き売上10~30%増」(各種食料品小売)、「食料品、化粧品や高額品は順調。衣料品は残暑で秋物より春夏物が動いている。飲食は平日夜が厳しい」(各種商品小売)、「地元飲食店の販売縮小、営業終了が相当の痛手。状況を改善すべく量販店への新商品投入、一般顧客向けのEC販売を開始。雇用調整助成金、柏市の支援給付金、持続化補助金(EC販売コスト軽減)を申請・採択されたが厳しい状況」(農畜産物・水産物卸売)、「飲食店の減少分を内食商品でカバー」(水産物卸・小売)、「入館者数、客単価、総売上それぞれに回復の兆し。飲食部門は回復の目途が立たず、一部閉鎖し人員を削減した」(公衆浴場業)、「猛暑とコロナの影響で売上前年比割れ」(洋菓子店)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「最寄りの大学が秋以降のオンライン授業を決め、学生向け物件の募集反応が鈍い」(不動産賃貸・管理)、「得意先が無くならない限り業況に変化はないが、不況が続けば影響は出る」(税理士)、「自社の苦手な部分を協業するといった新しいビジネスモデルの展開が必要」(広告)、「これから退去や値下げ交渉が出てくる」(不動産賃貸)、「新規顧客を増やす為、オンライン営業の取り入れ、インターネット問合せの工夫が必要」(広告代理)、「コロナの影響がプラスに働き、将来に備えた売却やテレワークにより部屋数増加希望の購入あり」(不動産管理)、「ドライバー不足が深刻。関東圏の34歳以下の求人倍率は9.27倍と悪化」(一般貨物自動車運送)、「学校の夏休み短縮により夏期講習の売上減少。学校が通常通り運営されれば次第に回復するだろうと期待。入会の問合せは増えてきた」(学習塾)、「売上は少しずつ増加。野菜が高値で質も悪い」(食堂・レストラン)などのコメントが寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
3月	▲53.5	▲31.5	▲61.5	▲76.0	▲35.7
4月	▲67.1	▲70.5	▲69.2	▲78.2	▲47.0
5月	▲64.2	▲70.0	▲69.2	▲81.8	▲26.6
6月	▲60.5	▲45.0	▲92.8	▲63.6	▲46.6
7月	▲45.0	▲31.5	▲72.7	▲40.0	▲28.5
8月	▲53.8	▲42.1	▲75.0	▲55.5	▲29.4
見通し	▲29.6	▲15.7	▲35.7	▲40.7	▲17.6

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 46.1	▲ 23.0	▲ 52.7	▲ 23.0	▲ 15.3	▲ 9.8	△ 3.2	△ 4.3
建設	▲ 31.5	▲ 15.7	▲ 36.8	▲ 21.0	▲ 10.5	▲ 5.2	△ 26.3	△ 10.5
製造	▲ 64.2	▲ 32.1	▲ 64.2	▲ 28.5	▲ 7.1	▲ 7.1	▲ 25.0	▲ 25.0
卸・小売	▲ 44.4	▲ 40.7	▲ 62.9	▲ 40.7	▲ 29.6	▲ 25.9	△ 14.8	△ 22.2
サービス	▲ 35.2	△ 11.7	▲ 35.2	△ 11.7	▲ 11.7	△ 5.8	△ 5.8	△ 17.6

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 53.8	▲ 29.6	▲ 27.4	▲ 14.2
建設	▲ 42.1	▲ 15.7	▲ 5.2	±0.0
製造	▲ 75.0	▲ 35.7	▲ 46.4	▲ 28.5
卸・小売	▲ 55.5	▲ 40.7	▲ 29.6	▲ 14.8
サービス	▲ 29.4	▲ 17.6	▲ 17.6	▲ 5.8

令和2年8月CCI-LOBOとの比較

- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲53.8に対し、「CCI-LOBO」が▲59.0で柏の方がマイナス幅が5.2ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、サービス業であり、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、製造業、卸小売業である。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲46.1に対し、「CCI-LOBO」が▲56.3で柏の方がマイナス幅が10.2ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、製造業、卸小売業、サービスであり、サービス業は10ポイント以上良い。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲52.7に対し、「CCI-LOBO」が▲54.1で柏の方がマイナス幅が1.4ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、サービス業であり、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、製造業、卸小売業であり、卸小売業は10ポイント以上悪い。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲15.3に対し、「CCI-LOBO」が▲20.8で柏の方がマイナス幅が5.5ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、製造業、サービス業であり、建設業、サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業であり、10ポイント以上悪い。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が△3.2に対し、「CCI-LOBO」が△2.1で柏の方がプラス幅が1.1ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は建設業、卸小売業、サービス業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業であり、10ポイント以上悪い。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲27.4に対し、「CCI-LOBO」が▲29.3で柏の方がマイナス幅が1.9ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、卸小売業、サービス業であり、サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業であり、10ポイント以上悪い。

業種別	概 況	トピック	業 種
建設業	少人数での経営なので感染症対策の徹底が事業継続の必須条件。ひとりも感染者を出さないように心掛けたい。	感染症対策の徹底	一般土木建築工事業
	仕事の受注は好転しているが人手不足が解消されず、仕事量に比べて完成までに日にちがかかっている。仕入等、必要経費の高騰により利益はとても厳しい物がある。	人手不足 経費増加	とび
	Square社のカード決済リーダーを9月から導入。遅ればせながら、キャッシュレス対応企業になった。	キャッシュレス導入	畳工事請負・畳製造販売業
	官公庁中心のため受注金額は昨年並だが、民間工事の受注が少なく、来年以降は見通しが立たない状況。	民間工事受注減少 先行き不透明	土木建築サービス業
	気温が高すぎて仕事に影響する。	天候の影響	土木工事業
製造業	働き方改革の一環として社内の業務効率化、情報の共有化を図っているが、定着するにはもう少し時間がかかりそう。残業時間の減少、有給休暇5日以上の取得義務化により社員の所得が減っている。今後、社員の副業・兼業を認めた場合、過剰労働等による労災が発生した際の責任所在について問題になるのではないかな。	売上減少 働き方改革 副業・兼業による過剰労働	自動車付属品製造業
	新型コロナウイルス感染拡大による自粛の影響は大きい。	新型コロナウイルスの影響	かばん
	昨年同期の数字も一昨年と比べると大幅減少しており、非常に厳しい状況が続いている。	業況悪化	プラスチック加工
	8月は売上高が前年比60%近くまで落ち込み、まだ底が見えない。雇用調整助成金を申請するため臨時休業を実施する。9月はパートの契約更新月だが、同じ水準で雇用できるのか見通せない。休業が続くと従業員がモチベーションを保つのが難しく、ミスや事故に繋がらないか危惧している。	売上大幅減少 雇用調整助成金 臨時休業実施による影響	金属製品
	新型コロナウイルス感染者増加による東京圏での飲食店自粛の影響で、酒類業界は売上増加を見込めない。製造量が減少する中、生産性の向上を図り利益を確保していく必要がある。	自粛の影響 テレワーク	酒類製造業
	新型コロナウイルスの影響で、今後の受注動向が不安定で方向性がつけづらい。	先行き不透明	金属加工機械製造業
	新型コロナウイルスによる、売上及び利益の減少を予測している。	売上・利益減少の見込み	機械・同部品製造業
	新型コロナウイルスの猛威の中、今やるべきことは事業存続のための資金繰りである。	新型コロナウイルスの影響	印刷業
	コロナ禍の影響を受け受注が激減しており、当面の間は非常に厳しい業況になると予想。	受注激減	電子応用装置製造業
	主力製品は夏季休暇と休業で生産性が低下し、前月より悪化。新規市場向け新製品の立ち上げを見込み設備投資を行う。観光やインバウンド需要の減少で、食品向け製品は大幅悪化。	売上減少 設備投資	鉄鋼業
	新型コロナウイルスの影響の有無が顧客によってはっきり分かれている。影響が出ている顧客はここ3か月間は注文が全く無く、今後の見通しも立っていない様子。	新型コロナウイルスの影響	プラスチック製品
	新型コロナウイルスにより、埋もれていた企業が立ち上がり、華々しく咲き誇っていた企業が意識改革を求められているようにみえる。	新型コロナウイルスの影響	印刷業
	時差出勤、時短勤務、テレワーク等の対応をしていたが9月から通常業務となり、不足していた営業活動を再開する。新型コロナウイルスの影響で控えていた営業部の1名増員を再検討する。	テレワーク 人員増員検討	化学工業
卸・小売業	来店客数に比べ客単価の上昇がみられ、来店頻度を下げたまとめ買いの傾向が分かる。売上の好転は期待できないため、営業費の削減に更に取り組み、営業利益の確保に努める。	まとめ買いによる客単価増 費用削減	百貨店
	帰省土産がダメだったが、生洋菓子はまあまあ。今後イベントが出来ない。	帰省土産売上減少	洋菓子店
	「Go Toトラベルキャンペーン」が始まっているが外出自粛の傾向は強く、お出かけ着は苦戦している。外食を控える動きは変わらないため、食料品は好調を維持。お盆休みは「家でプチ贅沢」か、高額商品の動向が良かった。	衣料品売上減少 食料品好調	大型小売店
	前月と変わらない水準で今後も推移していく見通し。	先月同水準での推移	建築材料卸売業
	イベント等の特注が減少。テイクアウトは上向き。	テイクアウト好調	その他の飲食料品小売業
	外出自粛により家庭での食事が増えている影響で、駅周辺の店舗を除き10～30%の売上増加。スタッフが新型コロナウイルスに感染してしまうと、風評被害等の悪影響が考えられ心配である。	売上増加 新型コロナウイルス感染を懸念	各種食料品小売業
	業種によって好不調にばらつきがみられる。食料品、化粧品や高額なものは順調。衣料品は残暑の影響で、秋物より春夏物が動いている。飲食は特に平日夜間が引き続き厳しい。	食料品・化粧品・高価格品好調 飲食売上(平日夜)減少	各種商品小売業
	地元飲食店の販売縮小、営業終了により相当の痛手。今後もしばらく続くと思われ状況を改善すべく、量販店への新商品投入、一般顧客向けのEC販売を開始。雇用調整助成金、柏市の支援給付金、持続化補助金(EC販売のコスト軽減)等を申請・採択されているが、かなり厳しい状況。	販路拡大 業況悪化継続	農畜産物・水産物卸売業
	飲食店の落ち込み分を、内食商品でカバーしている。	内食商品好調	水産物卸・小売業
	対前年比入館者数71%、客単価94%、総売上67%となり、回復の兆しか。なお、飲食部門は回復の目途が立たず、一部閉鎖し人員を削減した。	回復傾向 飲食売上不調継続	公衆浴場業
	猛暑と新型コロナウイルスの影響により、売上が前年割れ。	天候の影響 売上減少	洋菓子店
	厳しさ変わらず、これからに期待。	不況継続	ソフトウェア業
	最寄りの大学が秋以降もオンライン授業を決めているため、学生向け賃貸物件の募集反応が鈍い。その他は、いまのところ安定推移。	学生向け賃貸物件不調	不動産賃貸・管理業
	得意先がなくなる限り業況に変化はないが、不況が続けば影響は出てくる。	先行き不透明	税理士

【令和2年8月業種別業界内トピックス】

サービス業	自社の苦手な部分を協業するといった、新しいビジネスモデルの展開が必須。	ビジネスモデルの新展開	広告業
	不動産賃貸はこれから退去や値下げ交渉が出てくる。また、今年いっぱいイベントをやめるべき。	飲食テナント	不動産賃貸業
	新型コロナウイルスの影響はしばらく続くため、新規顧客を増やしていく必要がある。オンライン営業の取り入れ、紹介取引、インターネット問い合わせの工夫等、営業手法も変えていきたい。	営業方法の改革	広告代理業
	新型コロナウイルスの影響がプラスに働き、将来に備えた売却、テレワークにより部屋数増加希望の購入あり。	新型コロナウイルスの影響	不動産管理業
	ドライバー不足が深刻。関東圏における34歳以下の求人倍率は9.27倍と悪化。	ドライバー不足	一般貨物自動車運送業
	新型コロナウイルスの影響で学校の夏休みが短縮されたため、夏期講習の売上減少。今後、通常通り運営されれば次第に回復していきだろうと期待している。実際、少しずつ入会の問い合わせは増えてきている。	学校の夏休み短縮の影響	学習塾
	高齢層の外出自粛や宴会需要の激減による、売上高の減少が続いている。	外出自粛による売上減少	日本料理
	売上は少しずつ増加。ただ野菜が高値(白菜が1箱4、5千円)で質も悪い。	売上回復傾向 野菜の仕入値高騰	食堂・レストラン

令和2年8月の柏の景気天気図

柏の景気情報と全国CCI - LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI $\geq$ 50	好調 50>DI $\geq$ 25	まあまあ 25>DI $\geq$ 0	不振 0>DI $\geq$ ▲25	極めて不振 ▲25>DI

業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 53.8	 ▲ 42.1	 ▲ 75.0	 ▲ 55.5	 ▲ 29.4
CCI—LOBO	 ▲ 59.0	 ▲ 34.9	 ▲ 69.6	 ▲ 53.2	 ▲ 70.2

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 46.1	 ▲ 31.5	 ▲ 64.2	 ▲ 44.4	 ▲ 35.2
CCI—LOBO	 ▲ 56.3	 ▲ 33.2	 ▲ 67.1	 ▲ 48.2	 ▲ 69.3

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 52.7	 ▲ 36.8	 ▲ 64.2	 ▲ 62.9	 ▲ 35.2
CCI—LOBO	 ▲ 54.1	 ▲ 32.1	 ▲ 63.5	 ▲ 48.4	 ▲ 67.0

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 15.3	 ▲ 10.5	 ▲ 7.1	 ▲ 29.6	 ▲ 11.7
CCI—LOBO	 ▲ 20.8	 ▲ 27.7	 ▲ 15.6	 ▲ 18.0	 ▲ 21.8

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 3.2	 26.3	 ▲ 25.0	 14.8	 5.8
CCI—LOBO	 2.1	 24.9	 ▲ 14.2	 11.6	 ▲ 2.6

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 27.4	 ▲ 5.2	 ▲ 46.4	 ▲ 29.6	 ▲ 17.6
CCI—LOBO	 ▲ 29.3	 ▲ 11.2	 ▲ 33.1	 ▲ 31.6	 ▲ 39.3

CCI - LOBO

商工会議所早期景気観測 (8月速報)

調査期間：2020年8月14日～20日

調査対象：全国の333商工会議所が2,727企業にヒアリング調査を実施

全国の業況

業況DIは、感染拡大の影響から足踏み。先行きも強い警戒感から、慎重な見方続く

8月の全産業合計の業況DIは、▲59.0と、前月から+0.3ポイントの改善。新型コロナウイルスの影響による在宅時間の増加に伴い、飲食料品のほか、家具・家電などの需要も伸びている小売業や、公共工事以下

支えられた建設業が堅調に推移した。一方、主に都市部を中心に感染が拡大する中、消費者のマインド低下や帰省・旅行の自粛、一部の自治

体における飲食店への営業時間短縮の要請などが下押し要因となり、観光関連の業況は厳しい状況が続く。これまで経済活動の再開に伴い、持ち直しの動きがみられたものの、足元では感染拡大の影響から足踏みとなった。中小企業の景況感は依然として厳しく、回復に力強さを欠く。

先行きについては、先行き見通しDIが▲52.9（今月比+6.1ポイント）と改善を見込む。自動車関連をはじめとする中国向けの輸出

持ち直しへの期待感がうかがえるほか、ネット販売の強化やIT活用など新たな生活様式への対応を進める企業から前向きな声も聞かれる。一方、主に都市部を中心とする新型コロナウイルスの感染拡大への懸念から、消費者のマインド低下や資金繰りの悪化など、影響の長期化に対する警戒感が強まっており、先行きに対して慎重な見方が続く。

○各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

業種別にみると、今月の業況DIは前月に比べ、サービス業は悪化、建設業、小売業は横ばい、その他の業種は改善した。各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】「個人の住宅や飲食店の店舗などの建築工事は中止・延期が出ているが、猛暑の影響もあって空調設備工事は伸びている」（建築工事業）、「新型コロナウイルスの影響により、夏休みに予定されていたお祭りやイ

ベントの中止が相次ぎ、例年受注していた会場設営などの案件がゼロになった。来期に向けた動きも鈍く、見通しが立っていない」（一般工事業）

【製造業】「米国・欧州向けは低調なものの、中国向けは回復傾向にある。ただし、今後の国内外における需要予測が難しく、先行きは不透明」（自動車部品製造業）、「飲食店向けや観光客のお土産用などの受注は大幅減となっているが、スーパー向けの加工食品や総菜などを製造する企業からの引き合いが伸びており、新規顧客からの問い合わせも増えている」（調味料製造業）

【卸売業】「8月に入り猛暑が続いていることで、ようやく夏物衣料に動きが始めたが、売上は前年度実績を大きく割り込んでいる」（衣料品卸売業）、「長梅雨に伴う日照不足や8月以降の記録的な猛暑により、野菜等の出荷に影響が出ている。ただ、小中学校の夏休み短縮を受け、例年より早い時期から学校給食の引き合いが増えている」（食料品卸売業）

【小売業】「消費者の在宅時間の増加により、低価格でカジュアルな服の需要が高まる一方、主力である高価格帯の外出用の洋服が売れない」（衣料品小売業）、「自宅でお酒を楽しむ『宅飲み』ニーズが高まっており、乾き物やチーズ、総菜などのおつまみと酒類の売れ行きが好調。また、在宅での食事機会が増えていることから、すぐに調理できる冷凍食品の品揃えを強化し、需要を取り込みたい」（スーパー）

【サービス業】「お盆の4日間にわたり行われる全国でも有名なイベントが中止されたことで、観光客・帰省客が大幅に減少。開店休業の状況で、経営は厳しい」（飲食業）、「7月に比べれば、GOTOトラベルキャンペーンによる予約が多少増えたものの、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、近隣の海水浴場が閉鎖されたほか、小中学校の夏休み短縮の影響もあり、売上は前年同月比で5割にとどまる」（宿泊業）

全国・産業別業況DIの推移

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
3月	▲49.0	▲18.6	▲51.7	▲53.1	▲58.9	▲55.8
4月	▲60.4	▲29.3	▲63.2	▲66.7	▲64.0	▲71.2
5月	▲65.8	▲37.7	▲69.9	▲62.9	▲70.0	▲77.6
6月	▲62.8	▲35.0	▲72.6	▲61.6	▲60.4	▲73.4
7月	▲59.3	▲34.8	▲70.6	▲59.5	▲53.4	▲68.4
8月	▲59.0	▲34.9	▲69.6	▲56.7	▲53.2	▲70.2
見通し	▲52.9	▲34.1	▲54.8	▲52.0	▲56.6	▲60.5

柏の景気情報 (令和2年8月の調査結果のポイント)

★調査結果のまとめ

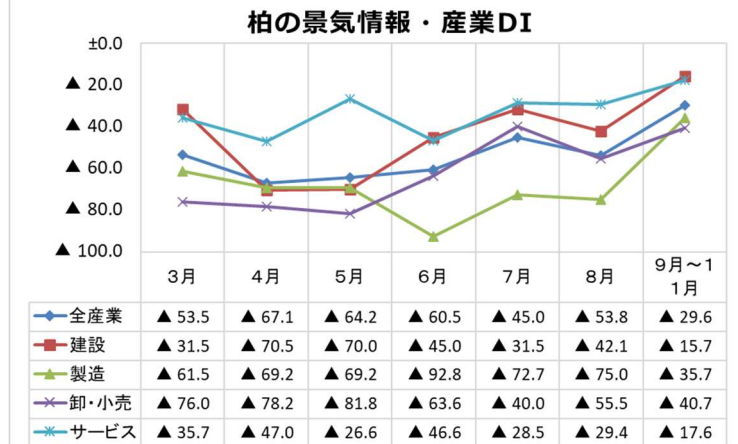
調査期間：令和2年8月24日～9月8日 調査対象：柏市内134事業所及び組合にヒアリング、回答数91件

全産業DIは再び悪化。新型コロナウイルスの影響による厳しさは残るも、先行きは持ち直しに期待

8月の全産業合計のDI値（前年同月比ベース、以下同じ）は、▲53.8（前月水準▲45.0）となり、マイナス幅が8.8ポイント拡大、4か月ぶりに全産業で悪化。特に製造業は、3月以降はDI値が▲60以上と高水準で推移、飲食業も厳しい。

新型コロナウイルス感染症の感染防止対策と社会経済活動の両立が求められる中、東京圏における感染拡大の懸念と暑さの影響もあり、消費マインドの低下、感染リスクの長期化が要因。一方、夏休みの外出自粛の影響でテイクアウトは上向き、食料品や化粧品は順調、先月から全産業で新たな設備投資やビジネスモデル転換の動きに言及したコメントも寄せられている。

先行き見通しDIは▲29.6（今月比+24.2）と改善への期待感大きい。

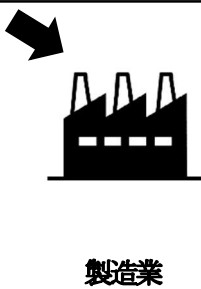


★業種別の動向

前月と比べたDI値の動き 改善 横ばい 悪化



「少人数経営なので感染者を出さないよう徹底」（一般土木建築工事）、「受注は好転したが人手不足が解消されず、仕事量に比べて完成までに時間がかかる」（とび）、「square社のカード決済を導入しキャッシュレス対応開始」（畳工事請負・畳製造販売）、「官公庁の受注は昨年並みだが、民間工事受注は減少。来年以降の見通し立たず」（土木建築サービス）、「気温が高すぎて仕事に影響」（土木工事）



「働き方改革で社員の所得減。副業・兼業を認めた場合、過剰労働等で労災が発生した際の責任の所在が問題になるのでは」（自動車付属品）、「自粛の影響は大きい」（かばん）、「売上高が前年比60%近くまで落ち、底が見えず。雇用調整助成金を申請するため臨時休業を実施。9月はパートの契約更新月だが同水準で雇用できるだろうか」（金属製品）、「東京圏の飲食店自粛で酒類業界の売上増は見込めず」（酒類）、「受注動向が不透明で今後の方向性がつけづらい」（金属加工機械）、「受注激減。当面の間は非常に厳しい業況」（電子応用装置）、「主力製品は夏季休暇と休業で生産性が低下し前月より悪化。新規市場向け新製品の立ち上げを見込み設備投資を行う。観光やインバウンド需要の減少で食品向け製品は大幅な悪化」（鉄鋼業）、「コロナの影響が出ている先はここ3ヶ月間注文が全く無い」（プラスチック製品）、「9月から通常営業を開始。コロナで控えた営業部の1名増員を再検討」（化学工業）



「来店客数に比べ客単価が上昇でまとめ買いの傾向。営業費削減を更に取り組む」（百貨店）、「帰省土産がダメだったが、洋生菓子はまあまあ」（洋菓子店）、「『GoToトラベル』が始まるも外出自粛の傾向は強く、お出かけは苦戦。お盆休みは家でプチ贅沢か、高額商品の動向が良かった」（大型小売店）、「イベント特注が減少。テイクアウトは上向き」（飲料品小売）、「家庭内食事増加で、駅周辺店舗を除き売上10～30%増」（各種食料品小売）、「食料品、化粧品や高額品は順調。衣料品は残暑で秋物より春夏物が動いている。飲食は平日夜が厳しい」（各種商品小売）、「地元飲食店の販売縮小、営業終了が相当の痛手。状況を改善すべく量販店への新商品投入、一般顧客向けのEC販売を開始。雇用調整助成金、柏市の支援給付金、持続化補助金（EC販売コスト軽減）を申請・採択されたが厳しい状況」（農畜産物・水産物卸売）、「飲食店の減少分を内食商品でカバー」（水産物卸・小売）、「入館者数、客単価、総売上それぞれに回復の兆し。飲食部門は回復の目途が立たず、一部閉鎖し人員を削減した」（公衆浴場業）、「猛暑とコロナの影響で売上前年比割れ」（洋菓子店）



「最寄りの大学が秋以降のオンライン授業を決め、学生向け物件の募集反応が鈍い」（不動産賃貸・管理）、「得意先が無くなり限り業況に変化はないが、不況が続けば影響は出る」（税理士）、「自社の苦手な部分を協業するといった新しいビジネスモデルの展開が必要」（広告）、「これから退去や値下げ交渉が出てくる」（不動産賃貸）、「新規顧客を増やす為、オンライン営業の取り入れ、インターネット問合せの工夫が必要」（広告代理）、「コロナの影響がプラスに働き、将来に備えた売却やテレワークにより部屋数増加希望の購入あり」（不動産管理）、「ドライバー不足が深刻。関東圏の34歳以下の求人倍率は9.27倍と悪化」（一般貨物自動車運送）、「学校の夏休み短縮により夏期講習の売上減少。学校が通常通り運営されれば次第に回復するだろうと期待。入会の問合せは増えてきた」（学習塾）、「売上は少しずつ増加。野菜が高値で質も悪い」（食堂・レストラン）

★全国の商工会議所早期景気観測調査（CCI-LOBO）との比較

全産業合計では、「柏の景気」が▲53.8に対し、「CCI-LOBO」が▲59.0で柏の方がマイナス幅が5.2ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、サービス業であり、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、製造業、卸小売業である。